

No.807 February 2024

ASAHI MACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

爽やかな風味
味わう春を待つ

2024

2

No.807



ASAHI TOWN × MIZUNO 共同事業

朝日町は、スポーツ用品メーカーの持つノウハウを地域活性化につなげることを目的に、ミズノ株式会社と総合的なまちづくりにおける連携協定を締結しています。本事業もその取組みの一環として実施します。

長野オリンピック スピードスケート競技 金メダリスト

しみず ひろやす 清水 宏保氏が、 朝日町に来る！



清水 宏保氏 プロフィール

幼少期からスケートを始め、スピードスケート短距離界で活躍。1998 年長野オリンピックで、500 m で金メダル、1000 m で銅メダル、2002 年ソルトレークシティオリンピックで、500 m で銀メダルを獲得。

2010 年に現役を引退。その後、大学院にて医療経営学を学び、2013 年には北海道札幌市に治療院を開院し現在に至る。また、ぜんそく対策の啓もう活動をはじめ、多くの講演会やメディアに出演するなど幅広く活躍中。

第 36 回 朝日町生涯学習推進大会

日時：2 月 25 日（日）13 時 30 分開会 ※事前予約不要／入場無料
会場：創遊館ホール および フォーラム

清水宏保氏によるトークショーをはじめ、子どもたちの絵画・書道、各地区の公民館活動や文化教室会員による展示・発表を行います。ぜひご参加ください。

朝日町文化教室・ ふれあいスポーツクラブ ステージ発表

- 着付け教室
- 民謡・歌謡教室
- キッズダンス教室

フォーラム展示

- 生涯学習活動の紹介・小中学生の絵画、書道などの入選作品展示
- 各自治公民館報の展示・中央公民館、地区公民館の活動紹介
- 文化教室展示発表 および 活動紹介
華道教室・刺し子教室・書道教室・クラフト教室・茶道教室・健康料理教室・大正琴教室・グラウンド・ゴルフ教室・おどり教室

問合せ先：教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
第 36 回 朝日町生涯学習推進大会
- P4 特集
考えませんか、家の未来
- P10 町政スポット
・収益金で町内福祉施設へ介護福祉機器を寄贈
・山岳遭難救助隊に感謝状 ほか
- P14 まちレポ
・クリスマスを楽しもう
・合格りんご贈呈式 ほか
- P19 大谷第五区に「大谷産直」がオープン
西澤敬子さんが「朝日連峰山だより」を復刊
- P20 大谷翔平選手からグローブを寄贈していただきました
各種文化・スポーツ大会の入賞結果、町立図書館コーナー
- P21 それいけ協力隊とウサビ
- P22 健康あさひるばんざい、朝日町の神社と御堂
- P23 戸籍のまど、となりのリンゴさん
- P24 「あさひまちブランド大学」
10 周年記念セミナー THE ORIGIN

表紙の写真



秋に収穫したりんごを雪中保存する「雪りんご」の雪かけ作業が 12 月 28 日、Asahi 自然観駐車場にて行われました。町特産のりんごを、春先でもおいしい状態で提供するため平成 21 年から取り組んでいるこの事業。今年は雪りんご研究会（志藤修治会長／栗木沢）の会員 15 人によりコンテナ 332 箱分のりんごが保存されました。

町長歳時記 (204)

限界を超える壁

～立ち向かう人間の強さ～

平穏に迎えたはずの今年の正月。人びとの生活を一変させた巨大地震が、石川県能登半島で発生してしまいました。1 月 1 日午後 4 時過ぎ、震度 7 を観測した巨大地震は家々を押し潰し、道路は寸断。火の手が上がり街を焼き尽くし、電気も水も閉ざされ、津波に見舞われた海岸線は隆起し、漁船も近づくことができない。まさに孤立無縁の半島となってしまいました。

地震の翌日、崩れ果てた我が家を前に、ただ呆然と立ち尽くす被災された女性の姿。周辺の街並みも一変してしまった状況の中、「これからいったいどうなるんでしょうかねえ」と、まるでよそ事のように語る言葉が、静かに響き渡ります。悲嘆とか困難など遥かに超える現実が、人びとの心をも無表情にしかなり得ない虚ろな姿に変えてしまうものなのかと、思わずにはいられませんでした。

地震発生から 1 か月余り、被災の実態が明らかになるにつれ、その被害の膨大さ甚大さに、息をのむばかりであります。日々変化する状況の中で、人びとの心も激しく大きく揺すぶられてきたのではないかと思います。

自営業を営んでいたある年配の女性の方の声が、私の心に深く響き、沁み込んできました。屋根が潰れ、瓦礫と化した自宅を前に、もう再起は無理だと、立ち直ることもできないあきらめの気持ちと、それでもどうしても頑張らなければならないという、そんな激しく揺れ動く心境の中で、「地震の所為で仕事ができなくなったということだけはしたくない。あと何年続けられるか分かりませんが、自分の身体が続く限りは頑張っていきたい。そしてそれもかなわなくなった時、店を閉じたいと思います」。

この限界を超える壁を前にした一人の女性の言葉が、私の胸から離れません。

朝日町長 鈴木浩孝

特集

考えませんか、家の未来

家族の大切な財産であり、長い時間を過ごした「家」。しかし、住み替えや福祉施設への入居などの理由で「空き家」となることもあります。空き家は放置すると近隣住民の生活に悪影響を及ぼしてしまいます。貴重な財産を守るための手段を考えてみませんか。

財産には適切な管理を

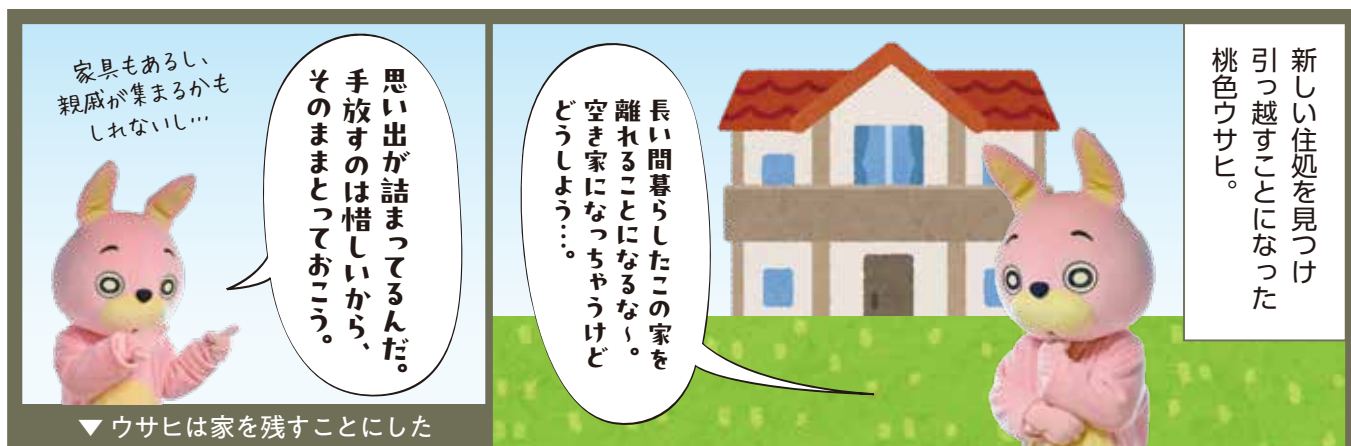
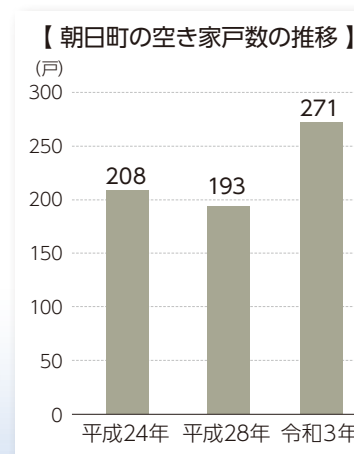
空き家といっても、定期的に管理されているものや所有者が遠方に居住し管理がされていないものなど、その状態はさまざまです。町では放置される空き家の発生予防や、適切な管理・利活用の促進などに向け平成30年に「朝日町空き家対策計画」を策定。また朝日町空き家対策協議会」を結成し、管理不全空き家の指導や処分などを協議して問題解消につなげています。

増加し続ける空き家

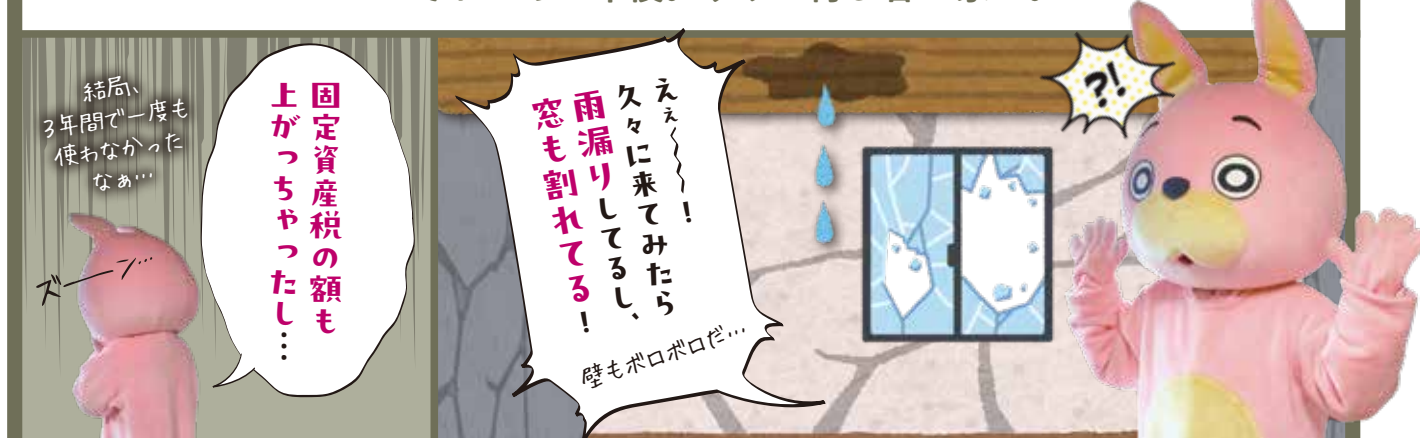
総務省の調査によると、放置され続ける可能性が高い空き家は平成10年には182万戸でしたが、平成30年には347万戸と約1.9倍に増加。今後も急速に増加することが予想されています。町の空き家戸数も増加（左図参照）しており、令和3年度で271戸が空き家に該当。うち12戸が特定空き家（放置され倒壊などの危険性がある空き家）と判断されています。

空き家問題は身近なこと

空き家問題は、誰にでも起こりうる問題です。もし、空き家となるかもしれない住宅をお持ちの方は、これを機に将来どうするかをご家族・ご親族と考えるはいかがでしょうか。



——それから3年後。ウサビ再び昔の家へ。



ウサビが選んだ道は…



▼ 修繕の詳細は7頁、空き家等バンクは8頁へ

▼ 解体の詳細は7頁へ

次へ! 今回は、ウサビと同じことが起こらないように空き家の管理・利活用などについて特集します。

空き家を解体したい

空家除去支援事業補助金

空き家になった住居を解体撤去する工事を、解体業者と請負契約した場合経費の一部を補助します。

【補助率】

工事費用の2分の1（上限額50万円。町内建設業者と請負契約した場合は75万円）

【対象家屋】

下記のいずれにも該当するもの

- 一戸建て住宅、または併用住宅で住居部分の床面積が2分の1以上のもの
- 所有権以外の権利が設定されていないもの（設定されている場合は当該権利者から除去の同意を得ているもの）
- 公共事業などの補償の対象でないもの

空き家をリフォームしたい

空き家等改修支援事業補助金

賃貸や購入にあたり、空き家等バンクに登録された物件を改修した場合、工事に要する経費の一部を補助します。

【補助率】

工事費用の2分の1（上限額50～70万円。居住者の世帯要件などによって変動。また、町内建設業者と請負契約した場合は、10万円を加算）

【対象工事】

- 台所やトイレ、浴室、洗面所など水回りの改修
- 内装、屋根、外壁などの改修

※賃借する利用者が工事を実施する場合、所有者などの承諾が必要

「空き家等改修支援事業補助金」の活用事例

補助金を活用してリフォームした一例を紹介します。

1. 空き家等バンクにて家を購入
2. 片付け・残置物の処理
3. 見積りをとって、補助金を申請
4. 水回りや電気関係など、専門的な技術が必要なところは専門業者に依頼。自分でできるところは自ら作業

補助金を活用してみて一言

合併浄化槽の設置など、予算を超えてしまったため補助金を利用して助かりました。自分たちの作業は、現在も休みの日など隙を見つけて楽しみながら進めています。

After



Before



写真は台所の様子。ほかの部屋や廊下もできるところは自分たちでリフォーム

解体も一つの手段

解体には200万円以上の費用がかかるといわれています。金銭的な理由で解体ができないことがないように設けられた空家除去支援事業には、昨年度26件の申請があり近年増加傾向にあります。

長い時間を過ごし、愛着がある家を解体することは、心情的に辛く感じる方も少なくありません。しかし、そのまま放置するとさまざまな悪影響が生じる可能性があります。維持管理に悩んでいる方は、まず一歩を踏み出すために、不必要な物を少しずつ整理するほか、再利用する方法を考えてみてはいかがでしょうか。

解体にも補助金があるんだ。改修支援補助金は、売る空き家は対象外なんだね。



空き家の放置、危険です

想定される主なデメリット



倒壊

地震や雪害などの自然災害により、倒壊してしまう危険性があります。外装材や屋根材などが落下すると周辺の建物を傷つけたり、通行の妨げとなります。



害虫の発生・悪臭

害虫やねずみが大量に発生すると不衛生な環境となります。また、腐敗した動物の糞尿やごみが放置されると悪臭の発生につながります。



不法侵入

不法侵入者に出入りされると、地域の治安悪化につながります。全国では過去に不法侵入者による放火で周辺の住宅がほぼ全焼する事例も発生しました。

放置によるデメリット

放っておかれた家は傷みます。「生まれ育った家に愛着がある」「家財・荷物を片付けられない」「将来親族が使うかも」などといった理由で長期間放置される傾向にある空き家。たった1年間住まなくなっただけでも、空気がこもったり動物が住み着いたりすることで、劣化が早く進んでしまいます。

劣化が進むと、上記のほかに、生い茂った庭木が電線にかかったり、周囲の景観が悪化したりと自分だけの問題にとどまらず、近隣住民の生活環境に深刻な影響をもたらしてしまいます。そして、周囲に被害が及ぶと所有者には損害賠償などの責任も発生します。さらに、電気代や水道料、固定資産税や保険料などの維持管理経費が必要となるほか、傷みが激

処分され費用を請求される場合も

周辺にも危険が及ぶような状態で放置が続き、行政からの指導や勧告に応じない場合「行政代執行」が実施されることがあります。これは今後状態が悪化することを防ぐために、行政が解体手続きを進めるもので、作業にかかった費用は全て所有者に請求されます。

家を「負債」動産にしないために

空き家問題は決して他人事ではありません。たとえ今は空き家を所有していても、思わぬきっかけで実家や持ち家が空き家になってしまう場合もあります。なるべく手間と費用をかけないためにも早めの相談・手続きが大切です。

管理不全空家も、土地の固定資産税が

最大 **6倍** になる
可能性があります

通常、居住用の敷地として利用されている土地（住宅用地）は税負担が軽減されます。しかし、管理が不十分な空き家の敷地にはその特例が適用されない場合があります。

昨年12月、適用外となる家屋が見直され、倒壊などの恐れがある「特定空家」に加え、窓や壁などが破損しており放置が続くと特定空家となる可能性がある「管理不全空家」も税負担軽減の適用外となりました。

適用外となった場合、200㎡以下の部分は土地の固定資産税が最大6倍、200㎡を超える部分は3倍となる可能性があります。

暮らしの話、聞きました

空き家等バンクを活用して移住を決めた方、同じ地域の方からお話を聞きました。

先輩居住者…阿部 馨さん・洋子さん

白倉区は戸数も少なく、ほとんどの住民が高齢者です。そんな中で武藤さん夫婦が移住してくれて区民みんなで喜んでます。2人はまつりや公民館の雪囲い作業など、区内の集まりにも積極的に参加してくれて、本当に頼りになるしありがたいですね。また、2人がYouTubeに動画を上げると毎回視聴し2人の価値観を知ったり、家をリノベーションする様子を楽しんだりしています。積もった雪を除雪するだけでなく、かまぐらを作っていたときは感心しました。これから世話を焼きすぎない程度に、適度な距離感を保ちながら仲良く暮らしていきたいです。



移住者…武藤 一馬さん・由衣さん

東北3県で「良い空き家」を探す中、朝日町の空き家バンクを知りました。住む前は、仕事ができる環境か、町民と馴染めるかなど不安な点がありましたが、内見で町民の方とお話した際、心地よい距離感で接してくださり移住を決意しました。仕事（デザイン関係）に関してはネット環境が整っている上で、クリエイターも多いため連携が取りやすく良い刺激をもらっています。不安だった雪は除雪車が綺麗にはいてくれて、何よりオーナーさんや区民の方がサポートしてくださるので乗り越えられています。特産品や自然などはもちろん、素敵な人が多くいて面白い町だなと感じています。



先輩居住者…志藤 一枝さん

私が移住したばかりで、英語塾を始めたとき「二枝さん一人だと子どもを預けるのが不安だけど、長く町に住む人が一枝さんを応援しているから信用できる」と言われたことがあります。その言葉は今でも大事にしています。周りに感謝することはもちろん、次は自分が移住者の方を支えられるような雰囲気づくりを心がけています。文ちゃん岩崎さんとは似た立場にあったからか、すぐに打ち解け合うことができました。今では家族全員が文ちゃんと本音で話しています。これからも「おたがいさま」の気持ちを大切に、助け合いながら暮らしていきたいですね。



移住者…岩崎 文高さん

退職を機に山形への移住を考え空き家バンクで探していたところ、問合せに素早く反応をいただいたので、朝日町への移住を決めました。志藤さん一家には日ごろからお世話になっています。旦那の政利さんに除雪作業を手伝ってもらったり、農作業を体験させてくれたりと面倒を見てくれるので、特に大変に感じることがありません。そして、一枝さんが移住者ということもあり、悩みや苦勞を共有できてとても助かっています。農作業は大変ですが何もかも新鮮で楽しいですね。気候も想像より安定していて過ごしやすく、元同僚にも自慢できる楽しい生活を送っています。



取材時に志藤さんの義母・沖代さんを出迎えて志藤さん宅にて撮影▲

空き家等バンクを運営している 阪野正義さん（一般社団法人 希望者活動醸成機構 代表）から利用の要点をお聞きました

空き家などの成約には「交渉を進めていくうちに気が合った」など人の縁があって至ることが多い印象もあります。利用希望者の中には、理想の物件像を持つなどのこだわりが強い方もいらっしゃいます。「理想」はなかなか存在しません。成約された方は、所有者とじっくり対話し、地域のことでも知って決断しています。地域の中で住民と関わり合いながら安心して暮らすためにも、利用希望者には焦らず長い目で物件を探してほしいですね。



物件を所有される方は、なるべく早いうちに登録されることをお勧めします。時間の経過での物件の損傷や、状況の変化で手続きが困難になるなどのリスク増加の可能性があります。思い出や気持ちの整理がつかないこともあると思いますが、合理性も持ち合わせましょう。売りたい・貸したいという思いがある方は、お早めにご相談ください。

物件の引き渡しまでは、数多くの作業や手続きがあります。建物にも鮮度があること意識して、少しずつ行動に移すことを心がけましょう。

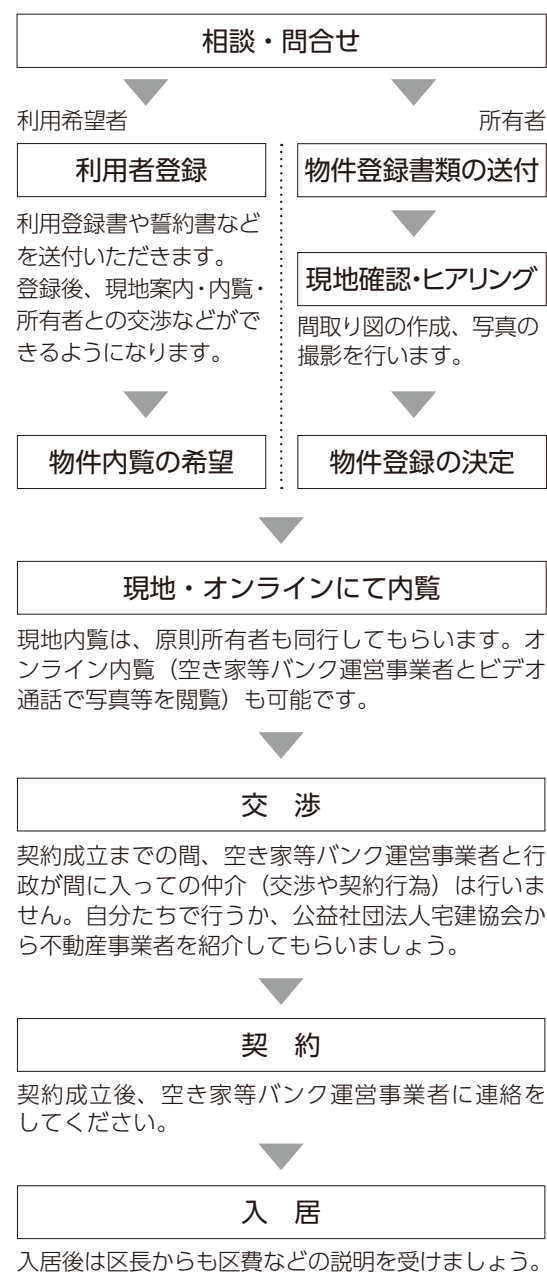
早めに登録してみませんか？

登録は引越し日の6カ月前から可能です。登録の条件（一例）は以下のとおり。気になったら空き家等バンクの相談窓口にご相談ください。

- ☐ 窓が割れていたり、壁・床・天井に穴が空いたりしていない（物理的な損傷がない）
- ☐ 仏壇や神棚などの宗教的なもの、ゴミや大量の私物が残っていない
- ☐ 所有者自身が手続き可能な状態である。共有持分の場合、全員の同意を得ている
- ☐ 家屋・土地ともに抵当権がない
- ☐ 宅地のみの登録の場合、再建築が可能

入居までの流れ

新たな居住者が確定するまでの手続きを紹介します。



登録された約74%が成約しました

所有者と希望者のマッチングを支援し、空き家の利活用を推進する「空き家バンク」。各自治体の空き家バンクに登録することで、全国版の空き家バンクにも情報が掲載されます。当町の空き家等バンクには昨年度時点で97件が登録され、うち72件が賃貸・売買成約に至っています。

決断したら、お早目の登録を

成約のコツは「新たな居住者の立場で考える」こと。新たな居住者は、物件の改修や予算、地域との関わり方を考えます。現状把握と適切な維持管理が手続きを進める肝となります。

一方、所有者自身が認知症などによって法律行為の意思能力がない場合や行為能力が制限されている場合などは、契約・手続き等ができません。所有者が亡くなった場合は相続登記後、空き家等バンクへ登録することになります。

早めの登録申請は、スムーズに手続きを進め、成約に至るために大切なことです。

空き家等バンクの相談窓口

（空き家等バンク運営事業者）
一般社団法人 希望活動醸成機構
メール：akiya@asahi-iju.com
電話：050-5363-9292
担当：阪野 正義（まさよし）
※電話は業務で取れない場合があります。留守番電話をお残しください。

「空き家等バンク」で家を未来へ

朝日町空き家バンク
ホームページ



インバウンド誘致も好調 今年で20年目 りんご海外輸出事業



川口副町長によるトップセールスの様子



説明会には旅行会社約15社と旅行愛好者ら30人が参加

平成16年度に開始した町産りんご海外輸出事業が、このたび20年目を迎えました。今年度は主要輸出国であるマレーシア・台湾のほか、タイやフィリピン、香港へ計37・2トンと昨年比115%の出荷を記録。台湾の店頭でPRを行った農林振興課の担当職員は、「訪れたお客様は高値にも関わらず、町産りんごを次々に購入してくださり、長年の輸出事業により朝日町のりんごのおいしさが現地の人に知られていることを実感した」と振り返ります。また、インバウンドの誘客に向けた取り組みとして、こ

れまで台湾の台北市を対象に観光PRを行ってきましたが、より多くの方から朝日町に訪れていただこうと、台湾第2の大都市である台中市でも観光PRを行いました。1月7日と8日に一般旅行者と旅行会社を対象とした説明会を行い、台中市在住の朝日町親善プロガーである酒雄さんと町職員が町の魅力を紹介します。りんごや観光地についての詳しい説明を行い、朝日町の魅力をアピールしました。

インバウンド誘致も含め、今後も生産者・JA・観光関係者・町が一丸となり、町の魅力を国内外に発信します。

朝日中アルミ缶回収ボランティア 収益金で町内福祉施設へ介護福祉機器を寄贈



朝日中学校では平成26年から生徒会活動の一環で、地域に呼びかけて集めたアルミ缶を資源とし、購入した介護福祉機器を町内福祉施設に寄贈する活動を続けています。回収は昨年に引き続き、学校に直接持ってきてもらう方式で2回実施し、2660キロものアルミ缶を回収しました。12月21日に行われた贈呈式では町内4つの福祉施設（和合荘、ふれあい荘、明鏡荘、グループホームあさひ）に、各施設のニーズに応えた介護福祉機器（車いす2台、ビーズパッドマット6枚、歩行器3台、ベッドサイドテーブル2台、シルバーカー1台）が贈られました。

式では、生徒を代表して副会長の佐藤華華さんが「アルミ缶回収にご協力いただいた地域の皆さん、介護福祉機器を用意してくださった岡崎医療さんのご協力のおかげで各施設へ寄贈することができました。これからも地域を想い、貢献する態度のもと積極的に活動をしていきたいと思います」とあいさつ。続いて各施設の代表者が謝辞を述べました。今回で10年目を迎えるこのボランティア活動。毎年多くのアルミ缶を回収できているのは、中学校の活動が町全体に浸透しているからこそです。地域の関心が高まるとともに、学校と地域とのつながりも深まっています。

寄付採納報告



箸の加工は株式会社朝日相扶製作所にて行われました

1月12日、山形日産自動車株式会社（小関眞一代表取締役／山形市）より創立60周年の記念品「マイ箸」を寄贈していただきました。

箸は、同社が創立60周年を迎えた令和3年に「ニッサンの森」にて伐採したカエデの木を活用。食品衛生法に基づき、2カ年にわたって完全乾燥を行い完成したものです。役場正面玄関にて展示していますので、ぜひご覧ください。



高橋義信工場長（右）

1月10日、日東ベスト株式会社（塚田莊一郎社長／寒河江市）より、まちづくり寄付金として金員10万円をいただきました。これは、11月3日に開催された日東ベスト文化祭のチャリティーバザーによる売上げ金の一部です。

来庁した大谷工場の高橋義信工場長は「寄付金は町のさらなる振興発展に役立ててほしい」と述べました。

OECD調査団が棚田を視察



説明を行ったのは、榎平棚田保全会の志藤寛一会長（左）

令和5年に県内各地へ視察に訪れたOECD（経済協力開発機構）の調査団が1月11日、その調査結果の中間報告

を行うために来県しました。農村地域の持続的発展を目標に掲げ、地域資源を活用した取り組みなどに注目して日本やフランスなど5か国で進められているこの調査。一行は中間報告の前に、その取り組みのモデルとして、令和5年に引き続き榎平の棚田を視察し「地域の財産である棚田を、伝統的な農法などで価値を高める取り組みは各国の参考になる」と高く評価していました。

山岳遭難救助隊に感謝状



山岳遭難者の救助活動などに長年従事し続けている朝日町山岳遭難救助隊。12月20日、その功績がたたえられ寒河江警察署長より感謝状が贈られました。

謝状が贈られました。今回の贈呈を受けて、隊長の佐竹伸一さん（常盤）は「これからも隊員一同、各関係機関の皆さんと協力しながら、遭難者のいち早い発見と救助に努めていきたい」と話していました。同隊のメンバーの多くは山岳会員としても活動しており、安全に登山を楽しむため、草刈りやつり橋の設置などといった山道の整備にも取り組んでいます。

選挙管理委員会委員・補充員が改選されました



当選証書付与式の様子
白田和好選挙管理委員長（左）

12月4日、町議会において任期満了に伴う町選挙管理委員会委員と同補充員の選挙が行われ、委員4名と補充員4名が当選しました。また、12月26日に行われた選挙管理委員会委員で次のとおり委員長、同職務代理者が決まりました。任期は令和5年12月26日から4年間です。

選挙管理委員会では、選挙人名簿の登録、各種選挙の管理執行や選挙啓発などの選挙管理委員会の権限に属する事項について審議するため、定例会（年4回）と臨時会（選挙時などに随時）を開催しています。

選挙管理委員会委員の構成（敬称略）
委員長…白田和好（大谷第一）
委員長職務代理…長岡啓一（常盤）、長岡浩之（大町）★、渡辺きよみ（能中）★

選挙管理委員会補充員（敬称略）
長岡富美子（太郎第一）、鈴木久美子（本町）、大竹佳代子（大隅）、佐藤拓（栗木沢）★

※★…新任

コミュニティ助成事業を活用 元町区・大谷第五区に備品等が整備されました



1. 大谷第五区多目的集会施設に整備された机など

2.3. 元町公園に設置されたスプリング遊具とすべり台



コミュニティ助成事業を活用して元町公園にすべり台とスプリング遊具が設置。大谷第五区多目的集会施設には机21台、椅子63脚、テーブル用台車1台、チェアポーター2台が整備されました。

この整備を受け、今後より一層幅広い世代のコミュニティ活動の活性化が期待されます。

※コミュニティ助成事業
一般社団法人自治総合センターで、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備等に助成を行い、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与する事業。

災害発生時の迅速な対応に向けて 朝日町消防団・大規模災害団員 避難所設営訓練



1月23日、開発センターホールで大規模災害団員による避難所設営訓練が行われました。

大規模な災害で避難所を開設した場合、設営や運営を担う大規模災害団員。訓練では、消防団員とともに避難所開設までの流れや、災害発生時の連絡体制を確認したほか、避難所開設時に実際に使用されるワンタッチ式のパーティションと段ボールベッドを組み立てました。

大規模災害団員の方は「自分の身の安全を確保でき次第、自分たちができることをできるだけ迅速に、精一杯取り組んでいきたい」と語っていました。

能登半島地震の復旧を支援 被災地に町職員を派遣



作業を進める阿部主事



市内の被害の様子

1月1日、震源地石川県能登地方で最大震度7、マグニチュード7.6の地震が発生しました。

この地震の災害対応を支援するため、県は1月15日から31日まで計80人の県職員と市町村職員を新潟市に派遣。当町からは22日から27日までの5日間、政策推進課の阿部哲之主事を派遣しました。

現地では、被災証明のため被害を受けた住家の被害認定調査を実施。市内は最大震度5強を記録しており、31日時点で計8853戸の住宅が全壊・半壊などの甚大な被害を受けました。

今回の派遣を阿部主事は「調査させていただいたエリアでは、液状化の影響により庭先に大量の砂が吹き出していたり、敷地内に地割れが起きているといった被害が見受けられました。『屋根瓦が落ちてきた』『家が傾いて戸が開かなくなった』など不安を感じている住民の方も多くいらっしゃいました。被災された方々の日常が1日でも早く戻ることを願い、心から復興をお祈りします」と振り返ります。

現在、被災された方々を支援するため役場1階窓口にて能登半島地震災害義援金箱を設置しています。

令和5年度 高齢者叙勲 安藤正義さんが旭日単光章を受章



旭日単光章を受章した安藤正義さん（左）

12月1日付で発令された高齢者叙勲で、安藤正義さん（杉山）が旭日単光章（※）を受章し、1月22日に鈴木町長より伝達されました。

安藤さんは昭和10年生まれの88歳。平成7年5月1日に朝日町議会議員に当選し、平成19年4月30日まで3期12年間の長きにわたり在職しました。その間、朝日町議会副議長、産業建設常任委員会委員長などを歴任し、豊富な経験と卓抜なる見識をもって地方自治の振興発展に貢献。

このたびの受章はその功績が認められたものです。受章を受けて安藤さんは、「自分がこのような立派な章をいただけるのは考えてもいませんでした。思い返してみますと、幼少の頃から現在に至るまで多くの方々から支えてもらっていたのだと感じています。現在は畜産業も息子に継いでもらい、ゆったりと生活しています。これもひとえに家族や地域、町民の皆さんのおかげです」と話していました。

（※）旭日単光章とは…
社会のさまざまな分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた方を表彰する場合に授与される勲章。



12/26 町の未来をみんなで考える 第2回まちなかフリートーク

12月26日、みんなの居場所すぽっとにて「まちなかフリートーク」が開催され、町民や町職員ら19人が参加しました。今回のテーマは『「つながり」～想いでつくる、まちのコミュニティ～』。最上町の交流拠点「une」を運営する山崎香菜子さんと当町地域おこし協力隊の田岡知暁さんを講師に招き、活動発表に加え、参加者を交えた活発な意見交換が行われました。参加者は「地域のにぎわい創出に向けて頑張っている人がたくさんいることを知って、励みになった」と話していました。

ホームページに写真



語りの会つむぎの方と
協力して装飾



「全然泡が立たないよ」と
初めてのお茶点てに夢中

1/10 文化と和の心を学習 伝統の行事を体験しよう

1月10日、あさひ保育園で「団子下げ」が行われました。無病息災などを願う団子下げは、保育園でも恒例行事の一つ。今年は、語りの会つむぎ（成原千枝代表／前田沢）による「だんごころころ」の劇の後、団子木の飾り付けを楽しみました。また、18日には創遊館和室で年長児による茶道体験が行われ、「交代の会（裏千家）」代表の若月加代子さん（西船渡）と大井恵子さん（本町）の指導のもと、お茶の点て方を中心に体験。緊張しつつも、茶道の心を学び楽しくお茶を味わいました。



▲「人権サンタクロース訪問」にて記念撮影
▶ Asuka&Satoshiのお二人



12/21 年に一度の特別な時間 クリスマスを楽しもう

12月21日、あさひ保育園にて人権啓発行事「人権サンタクロース訪問」が行われ、サンタクロースに扮した人権擁護員の方々が登場しました。園児たちはプレゼントを受け取り大喜び。「これからもお友達と仲良くできるかな」の問いかけに元気よく返事をしていました。また、25日には県内で活躍するミュージシャン Asuka&Satoshi によるクリスマスコンサートが行われました。園児たちは手拍子をしたりと一緒に歌ったりしながら、クリスマスソングやアニメなどの歌と演奏を楽しんでいました。

ホームページに写真



12/21 思いが詰まったりんごを食べて、頑張れ受験生！ 合格りんご贈呈式

12月21日、朝日中学校1年生から受験を控える3年生に合格りんごが贈呈されました。「合格」の2文字が入ったこのりんごは、1年生が総合的な学習の時間の一環として農家や町の協力を得て栽培したもの。生徒たちは摘果作業やシール貼り、収穫作業などを体験してきました。後輩の思いが詰まったりんごと手書きの応援メッセージを受け取った3年生は「いただいたりんごを食べてパワーを付け、志望校合格を目指して頑張ります」と意気込みを語りました。

1/13 ウィンタースポーツを楽しもう いもがわ少年教室

1月13日、いもがわ少年教室「スキー教室」がAsahi自然観スキー場で行われ、西部地区の児童と保護者28人が参加しました。西部公民館が主催し、子どもたちに豊かな自然を体験してもらうことを目的としたこの教室。児童の皆さんは、4人の講師からの指導を受け、基本的な滑り方や上手に滑るためのポイントを学びました。当日は雪が降っていましたが、あまりスキーをしたことがない低学年から、記録会を控える5・6年生まで多くの児童が楽しく過ごしていました。



12/24 柔道の楽しさを伝えるイベント じゅうどうフェスタ

12月24日、朝日中学校武道館を会場に「じゅうどうフェスタ」が開催されました。柔道スポーツ少年団の交流を深めるとともに、より多くの子どもたちに柔道に興味をもってもらうために開催されたこのイベント。参加した子どもたちは、マットが敷かれたコースを前転しながら進む障害物競走を行ったほか、OBの高校生による稽古「投げの形」を見学。また、会場に置かれたポップコーンメーカーで作った、できたてのポップコーンを味わいながら楽しそうに過ごしていました。

ホームページに写真



1/14 笑って元気に！ 新春公演「あさひお笑いライブ」

1月14日、創遊館ホールにて新春公演「あさひお笑いライブ」が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されたことを受け、町民の皆さんが本物の演芸に触れながら、明るく笑顔になってもらうことを目的としたこの公演。告知開始後すぐに盛大な反響を呼び、前売り券はすぐに完売。満席となった会場には5組のお笑い芸人が登場し、各組自慢のネタが披露されました。第2部では芸人の皆さんが来場者の質問に答えるコーナーなどが設けられ、来場者はにぎやかな時間を過ごしていました。

ホームページに写真



12/24 親子で楽しく新年を迎える準備を 門松づくり教室

一般社団法人アップルランド（今井一彦代表理事／大町）が主催する「門松づくり教室」が12月24日に宮宿公民館で行われました。山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業の助成を受けて実施されているこの教室は今回6回目の開催を迎えます。古川征一さん（立木）と阿部正春さん（夏草）が講師を務め、参加者は自分だけの門松を制作。初めて参加した親子は「作業は思っていたよりも簡単で、上手に作る事ができた」と話していました。



1/21 体と心をほぐす、穏やかなイベント ヨガと昔話とお茶飲み会

1月21日、新宅今井家「宿のやかた」でヨガを体験する「ヨガと昔話とお茶飲み会」が行われました。星の会（成原千枝代表／前田沢）が主催したもので、運動不足で凝り固まった体を、楽しみながらほぐしてもらおうと開催。参加者の皆さんは、整った呼吸を意識しながら足腰を中心に動かすポーズをとり、しっかりと体をほぐしていました。その後はスタッフによる昔話を聞いたほか、お茶を飲みながら歓談。身も心も温まる、穏やかな時間を過ごしていました。



▶会場に用意されたクロスボウのおもちゃも大好評でした



1/21 雪がなくてもみんなで楽しく バックラ冬遊びイベント 「モルック大会」

若者有志団体バックラが主催する冬遊びのイベントが1月21日、創遊館にて開催されました。当日は積雪量が少なく、当初予定していたチューブそり滑りの代わりにモルック（12本のピンを倒して50点先取を狙うスポーツ）が行われました。途中で50点を超えてしまい得点が振り出しに戻ると、悔しそうに「心が折れる」ともらしていた子どもたち。集中力を切らさずにやっとの思いで決着がつくときは、みんなで歓声を上げて喜んでいました。



来場者に映画の説明をするスタッフ（写真右）

1/21 子どもが主体となる教育を考える ドキュメンタリー映画上映会

町内の女性を中心に、さまざまな活動に取り組む団体「YUKARI」主催の映画上映会が1月21日創遊館ホールを会場に行われ、町内外から約180人が来場しました。上映されたのは「夢見る小学校」というドキュメンタリー映画。とある小学校の授業を通じて、どの子どももありのままに生活できる豊かな学校生活が描かれています。多くの世代に小中一貫校について考えるきっかけづくりとして設けられたこの企画。上映後、来場者は互いに教育についての意見を交換していました。

1/30 2/2 豊かな自然を体験 木を活用したものを学ぼう

ふるさとの自然に親しみ守り育てる「朝日町緑の少年団」の活動が1月30日と2月2日に行われました。

1月30日に行われたのは、宮宿小学校の児童たちによる有限会社白田工務店のモデルハウス見学。児童たちは木でできていることに興味津々で、終始さまざまな質問が飛び交いました。

また、2月2日は西五百川小学校の児童たちが西山杉を使った時計作りに挑戦。杉の香りを感じながら、用意された板をやすりで丁寧に磨き最後までこだわりをもって装飾していました。



講師を務めた白田工務店の社員2人に多くの児童が質問



時計の針を合わせるまで集中して作業を進めていました

※この活動は、山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業を活用しています



◀女性農業委員が企画・指導を務める講座。上の写真は米こうじを作っている様子



町立公民館が主催する文化講座。姉妹で仲良く作業を進めていました

1/12 1/21 1/16 1/22 どちらも毎年好評の手づくり講座 みんなで味噌づくり体験

寒さが続くことでゆっくりと熟成・発酵するなどの理由により、各地で味噌づくりが行われている昨今。町内でも味噌づくりを体験できる2つの講座が、西部公民館を会場に開催されました。

1月12日と16日に開催されたのは、町農業委員会の女性農業委員が企画・指導を務める講座。これは、女性農業委員の認知度を高めることなどを目的として開催されているもので、今年で7年目。参加者は12日にふかした米にこうじ菌を混ぜて米こうじを作り、16日にはその米こうじと大豆、塩をミンチにして味噌を仕込みました。

また、同月21日と22日にも町立公民館が主催する文化講座の一つとして開催されました。講師に安彦こうじ店（大江町）の安彦明さんを迎え、「はえぬき」の新米を使ったこうじを使用して味噌づくりを実施。参加者は、講師から味噌づくりに関するさまざまな専門的アドバイスをもらいながら挑戦しました。豆は安彦さんが用意したもののほか、参加者自身で用意したものを前日までに蒸して使用。初めて参加した方は「想像以上にたくさんの味噌ができてうれしい。最初は味噌汁にして飲みたい」と笑顔で話していました。



神事の最後には「豊栄の舞」が奉納されました

1/16 今年一年の商売繁盛を祈願 商売繁盛祈願祭

町商工会主催による、町内の商店や飲食店、建設・製造業社などの商売繁盛を願い祈る「商売繁盛祈願祭」が1月16日、創遊館ホールにて行われました。会場では豊龍神社の宮司の方々による神事があり、出席した各事業所の代表など30人が今年一年の繁盛を祈願。商工会の浅岡清二郎会長（西町）は「商工業の盛り上がりが町全体の活力につながるよう、今後も地域経済の振興に役職員一同取り組んでいきたい」と意気込みを語っていました。

1/19 商工会女性部が協力隊の活動を学習 地域おこし協力隊に学ぼう

1月19日、町商工会女性部の講習会がゲストハウス松本亭一農舎にて開催されました。当日は、地域おこし協力隊と集落支援員の4人が自身の活動を報告。その後は意見交換が行われたほか、木工によるにぎわい創出に取り組む今野颯隊員が講師を務める箸置きづくりのワークショップが行われました。参加した女性部長の阿部真理子さん（ハツ沼）は「私たちが知らなかった町の良さを知る良い機会となった。隊員の活動が充実しており、今後も頑張ってもらいたい」と話していました。



ワークショップでは町内のさくらんぼの木が使用されました

食品ロス対策とともに地元の盛り上げりを 大谷第五区に「大谷産直」がオープン

場所はこちら▶
(地図が表示されます)



特産品を通じて町をPR

大谷産直に出品する皆さんは今年度の12月と1月、東京都中央区の公園で開催される「太陽のマルシェ」に出店し、町特産品を販売しました。購入者には町のパンフレットも配布し、今後も商品が集まり次第出店予定とのこと。白田さんは「りんごや米など特産品を通じて、町に興味を持ってもらうきっかけになればいいですね」と話していました。



出店ブースには町を紹介する垂れ幕が掲げられています

産直には食べきれず余ったものの、傷や規格外のため出荷できなかった野菜やスナック菓子などが並べられています。「無駄になる食べ物が減り、同時に地域



場所が近いこともあり、日東ベスト株式会社大谷工場の社員が仕事帰りによく利用しています

令和5年7月、大谷第五区に「大谷産直」がオープンしました。代表を務める白田隆美さん（大谷第五）にオープンのきっかけを聞いたところ「想像以上に多く実ったかぼちゃを、捨てずに何とか消費できないものか」と考え産直を始めたとのこと。初めは白田さんを含め3人で始めた産直でしたが、少しずつ賛同者が増え、現在では7人が出品しています。

もにぎわってくれたらうれしい。限られたスペースですが、多くの方にぜひ気軽に出品していただきたいです」と話す白田さん。大谷産直は毎週火曜日と木曜日に開催されています。ぜひご利用ください。

朝日連峰の登山者も愛読した機関誌 西澤敬子さんが「朝日連峰山だより」を復刊

11月1日、西澤敬子さん（西原）が朝日鉱泉ナチュラリストファミリークラブ機関誌「朝日連峰山だより」を冊子にまとめました。「朝日連峰山だより」は、朝日鉱泉ナチュラリストの新築移転を記念し、ファミリークラブの会員に向けて発行され、昭和61年からの10年間、多くの方に届けられました。本には夫の信雄さんが生前書いた詩やエッセイ、町で会った人との思い出とともに、敬子さんが書いた似顔絵や写真などが収録されています。発行に至った経緯を伺ったところ、「昨年の夏、登山者がこの機関誌を熱心に読んでいたことを知り、なんとか復刊したいと思い編集を始めたんです」とのこと。そして、「昨年11月4日に行われた『信雄さんを偲ぶ会』にて、来場者全員で当時は振り返るために発行を決めました」と話していました。



著書を手に笑みを浮かべる敬子さん

信雄さんが書き続けた思い出話の中で、敬子さんが特におすすめする話は3つ。旧朝日鉱泉での生活の様子とともに、信雄さんがよく話していた「成長の限界」という本について書かれて



2/2

朝日町生活支援体制整備事業 暮らしの中にある 地域の宝ものの発表会

2月2日、創遊館ホールにて地域の支え合いなどを紹介する「暮らしの中にある地域の宝ものの発表会」が開催されました。発表会では講師のNPO法人全国コミュニティライフサポートセンターの木村利浩さんによる、全国各地の取り組み事例が紹介された後、町内で支え合い・助け合いを行っている2団体1個人が紹介されました。紹介された皆さんはステージに登壇し、講師からのインタビューを通じて日ごろの活動をにこやかに話していました。



今回紹介されたのは「古模長寿クラブ」、「大船木地内 お茶のみ」、高齢者夫婦を支える宮本千代子さん（西船渡）の取り組み

2/2

園内に響き渡る「鬼は外！福は内！」 あさひ保育園 節分の豆まき

2月2日、あさひ保育園で節分の豆まきが行われました。園児たちはそれぞれが思い描く鬼のお面や柊鰯（ひいらぎいわし）を手作りし、そのお面をかぶって豆まきをしました。



当日、3歳以上の園児たちは鬼にめがけて豆を投げつけ、3歳未満の園児たちは鬼に見立てた的に鰯を投げつけて見事鬼を撃退。初めは怖がって後ずさりする子もいましたが、園内には「鬼は外！福は内！」の元気な声と豆を撒く音が響き渡っていました。

ホームページに写真



2/4

子どもも大人も楽しく雪遊び Asahi自然観スキー場まつり

2月4日、Asahi自然観スノーパークで「スキー場まつり」が開催されました。大勢の中からジャンケンで勝ち残って豪華賞品を狙う「桃色ウサビとジャンケン大会」のほか、人が乗ったチューブそりを押してカーリングのように的に止める「狙って狙ってチューブそり」、雪上を爽快に走り回る「スノーモービル乗車体験」など子どもから大人まで楽しめる雪あそびが盛りだくさん。

多くの親子連れなどでにぎわう楽しい1日となりました。



2/4

美味しいラーメンできるかな ドキドキ探検隊 「中華めんを打って食べよう」

子どもたちに豊かな心と地域への愛着心をもってもらうため、地域の方が達人となって自然体験活動などを行うドキドキ探検隊（鈴木直幸代表）。

2月4日、今年度5回目の活動として、中華めんづくりが秋葉山交遊館にて行われました。講師を務めたのは西田和之さん（大江町）。参加した親子は協力して作業を進めていました。完成した中華めんは早速お昼に実食。自分たちで打っためんは格別においしく、全員が舌鼓を打っていました。



朝日町インバウンド推進員の林以真です。朝日町の魅力を台湾に発信するために活動してきてからあつという間に4年が経ち、とうとう卒業の時が来てしまいました。

協力隊に着任したのは令和2年。当時は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、SNSなどを中心に情報発信を行ってきましました。そしてそのコロナによる規制が緩和された今年は、引き続きSNSを活用しつつ、ようやくお客様に町の良さを直接アピールすることができました。

アピールする上で、私が一番大切にしてきたことは「体験してもらうこと」です。前回のコラムでもお話したとおり、お客



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「4年間、本当にありがとうございました！」

インバウンド推進員（地域おこし協力隊）**林 以真**（台湾出身）



台湾の議員さんが視察に来た際に撮った記念写真

様には町の印象がより深く刻まれるように意識してご案内をしています。具体的な取り組みとして、町のりんごを味わい、おいしさの理由に興味をもったお客様に対して農作業を体験してもらおうプランを作成。そして、りんごが実った時期には台湾の議員さんが来町し、収穫作業を体験されました。議員さんから「食べるよりも体験することが大切ですね」とお話しいただいたときはとてもうれしかったです。プラン作成にご協力くださった井澤壽一さん、プラン実行にご協力くださった佐藤果樹園さんには本当に感謝しています。

卒業後、私は町を離れますが、やることは今までとほとんど変わりません。各地で体験できる行事や、味わうことができる郷土料理などを旅行会社にアピールするとともに、お客様が旅先に悩んでいるのであれば条件にあった地域を案内していこうと考えています。

最後に、多くの農家さんをはじめ、一緒に食事したり、話を聞いてくれたりと面倒を見てくれた皆さん、本当にありがとうございました。これから引き続き朝日町の魅力を伝えていきますので、ご縁がありましたら、またよろしく願います。



大谷翔平選手からグローブを寄贈していただきました



メジャーリーガーの大谷翔平選手が全国の小学校にグローブを寄贈する企画が、昨年11月に発表され、町内の3小学校にも寄贈していただきました。

子どもたちに野球に興味をもってもらうために行われたこの企画。各小学校ではお披露目会が行われ、大谷小学校の児童は「軽くて使いやすいです。大谷選手の優しいイメージが、今回のプレゼントでさらに強くなりました。これからもメジャーで活躍し続けてほしい」と話していました。グローブは各小学校に展示されるほか、体育の授業などで活用されます。



▲大谷選手のサイン入りグローブ

各種文化・スポーツ大会の入賞結果

- ◆第22回つるり里芋体験農業・記録大会 園圃コンテストの部
1・2年生の部
【最優秀賞】 宮宿小1年 多田 圭吾
【優秀賞】 西五川小1年 牧野 睦
【優賞】 宮宿小1年 菅井 結仁
西五川小1年 松田 紬希
西五川小2年 海野 稀大
西五川小2年 阿部 桜空
3・4年生の部
【優秀賞】 西五川小3年 海野 玄馬
西五川小3年 羽柴アイペリ
【優賞】 西五川小4年 小川 竜輝
- ◆産経国際書道展（一般の部）
【特選】 西高2年 堀 光姫
一般 佐藤 夏奈
【秀作賞】 若月 怜音
一般 若月 怜音
- ◆全日本学生書道コンクール
【学会奨励賞】 朝日中3年 今井 美月
【秀作賞】 朝日中1年 成原奏太郎
朝日中2年 阿部 陽菜
朝日中3年 成原 慎太郎
朝日中3年 阿部 琥太郎
城北高2年 佐藤 翔太
- ◆第27回朝日町民柔道大会 小学生の部
①西五川小5年 阿部 太陽
②宮宿小4年 浅岡 優作
③宮宿小4年 多田 聡
④西五川小3年 若月 湊大
中学生以上 女子の部
①朝日中3年 海野 真穂
②朝日中2年 熊谷 重
中学生以上 男子の部
①朝日中3年 阿部 蒼空
②朝日中2年 石塚 那緒也
- ◆町小学校スキー記録会
5年男子の部
①海野一誠（西） ②阿部颯二朗（西） ③鈴木隆二郎（大） ④高山律（西） ⑤渡邊明真（宮） ⑥浅岡琉（宮）
5年女子の部
①布施志乃（西） ②近藤成（宮） ③佐藤初菜（宮） ④鈴木葵（宮） ⑤志藤ころ（大） ⑥阿部結希乃（宮）
6年男子の部
①佐久間陸斗（大） ②阿部正宗（宮） ③鈴木悠仁（西） ④堀上総（大） ⑤モラ玲音（宮） ⑥清野桐真（宮）
6年女子の部
①松田依知佳（宮） ②豊永サラ（大） ③長岡希奈（西） ④佐藤菜月（宮） ⑤樋口心葵（西） ⑥鈴木優歌（宮）

特別
拡大版

町立図書館のご案内



■ 2023 年 町立図書館 貸出しランキング 【一般書 TOP 5】

タイトル／著者	出版社
1 木挽町のあだ討ち／永井紗耶子	新潮社
2 魔女と過ごした七日間／東野圭吾	KADOKAWA
3 審議官／今野敏	新潮社
〃 署長シンドローム／今野敏	講談社
5 教誨／柚月裕子	小学館

【児童書 TOP 5】

タイトル／著者	出版社
1 ウルトラマン大図鑑DX	ポプラ社
2 パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち／柴田ケイコ	KADOKAWA
〃 ねずみさんのパンツ／tupera tupera	ブロンズ新社
4 パンどろぼうとなぞのフランスパン／柴田ケイコ	KADOKAWA
〃 ジブリ食卓となりのトロトロ／スタジオジブリ監修	主婦の友社

今月のブックテマコーナー

2023年、朝日町立図書館で最も読まれた本ベスト30を「一般書」「児童書」ごとにそれぞれ紹介。
各ブックテマコーナーは、毎月季節や催し物などに合わせて更新しています。図書館を訪れた際は、ぜひ注目ください。



特集（一般書）
「2023 年 町立図書館
貸出しランキングTOP 30」



特集（児童書）
「福は内鬼は外」
笑う門には福きたる 思わズクスツとくる本

新刊案内

第170回直木賞受賞作 「つむぎ」

河崎 秋子 著 新潮社
明治後期、人里離れた山中で犬を相棒にひとり狩猟をして生きていた熊爪は、ある日、血痕を辿った先で負傷した男を見つける。男は、冬眠していた熊「穴持たず」を追っていたというが…。『小説新潮』連載を加筆修正。

八月の御所グラウンド

万城目 学 著 文藝春秋
大学生・朽木は、借金の力タに、早朝の御所G（グラウンド）で謎の草野球大会、たまひで杯に参加する羽目になり…。表題作など、人生の愛しくほろ苦い味わいを綴る全2篇を収録する。「オール讀物」掲載を改題し単行本化。

第170回芥川賞受賞作 「東京回廊情話」

九段 理江 著 新潮社
ザハの国立競技場が完成し、寛容論が浸透したもう一つの日本で、犯罪者に寛容になれない建築家・牧名は、仕事と信条の乖離に苦悩しながら、パワフルに未来を追求する。日本人の欺瞞をユーモラスに描いた現代版「パベルの塔」。

その他の新刊

▼田舎に暮らすー山形県朝日町の風景ー／岩崎孝彦 ▼櫻がけの二人／嶋津輝 ▼ラウリ・クースクを探して／宮内悠介 ▼なれのはて／加藤シゲアキ ▼迷彩色の男／安堂ホセ ▼ツミデミック／一穂ミチ ▼平家物語／林真理子 ▼月ぞ流るる／澤田瞳子 ▼ジョニ黒／永井みみ ▼絡新婦の糸ー警視庁サイバー犯罪対策課ー／中山七里 ▼台北アセットー公安外事・倉島警部補ー／今野敏 ▼人間標本／湊かなえ ▼風に立つ／柚月裕子 ▼ふたつの時間、ふたりの自分／柚月裕子 ▼ウィキペディアでまちおこしーみんなであつくる地域百科事典ー／伊達深雪 ▼幸せ招く縁起物ー開運アイテム100×神仏・伝承・暦の疑問46×福を呼ぶ日々の工夫ー／本間美加子 ▼このミステリーがすごい！2024年版ー2023年のミステリー&エンターテインメントベスト20 ▼きみのお金は誰のためーボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」ー／内田学 ▼常識やぶりのアイデアおやつー「材料4つまで」の100レシピー／syuncookking ▼和のハギレでちくちく大人の着せかえドール／秋田廣子 ほか

Births		すこやかに		
区名	出生児氏名	性別	保護者名	
緑町	阿部 海	女	誠・仁美	
小原	佐藤 結	女	進哉・智鶴	
本町	布施 未	女	正徳・裕美	

Marriages		おしあわせに	
遠藤 信男 (真 中)		山田 和子 (埼玉県新座市)	

Obituaries		やすらかに	
区名	死亡者氏名	世帯主名	
大谷第六小原	白田 一男	和則 則富美雄	
栗木沢盤中	鈴木 咲	克則 人人子	
常真前田	阿部 福	本本 勝文	
新田宿卷	鈴木 春	美和 悟一	
助ノ元町	熊谷 美智子	陽本 武宏	
常盤原	鈴木 宏雄	本惠 幸子	
小津野	吉田 幹一	昭聡 昭志	
大谷第二	山岡 正	孝美 行人	
栄町	近藤 善	正吉 人	
夏草山	結城 善	本吉 人	
杉山	藤田 宏吉	ハル工 俊明	
八ツ沼	藤田 彰		
四ノ沢	塚崎 静		
栗木沢	遠藤 清		
本町	佐藤 廣		
栄町	鈴木 正		
八ツ沼	竹岡 ち		
太郎第一	布施 テル		
助ノ巻	橋本 まさ		
送大町	渡辺 幸		
沼向	菅井 き		
大谷第六	堀 つよ		

Population		人口と世帯数	
●令和6年		1月31日	現在
		※()内は先月比	
人口		5,979 人	(- 33)
男		2,971 人	(- 20)
女		3,008 人	(- 13)
世帯数		2,311 世帯	(- 3)
----- 12月～1月中の異動 -----			
出生		3人	転入 17人
死亡		36人	転出 17人
		(※外国人を含む)	



自衛隊から感謝状が贈呈されました

1月28日、陸上自衛隊第6師団第20普通科連隊長から、連隊創立68周年記念に、町と株式会社朝日自然観に感謝状が贈呈されました。

自然観へは冬期の訓練の場としてスキー場を提供したことに、町へは桃色ウサビを通じたPR活動などに協力したことに對して、それぞれ贈られました。

▲贈呈された感謝状
上：株式会社朝日自然観
下：朝日町自衛隊協力会(町)

健康
あさひるばんざい

令和6年度 各種健診のお申し込みは お済みでしょうか？

【2023年度 第10回】今月の担当 … 木村 朋恵 主査

当町における令和4年度の国民健康保険加入者の特定健診受診率の割合は61・4％と、県内で6番目に高い受診率でした。しかし、約4割の方は未受診となっており、年齢別に見ると、特に40・50代の方の受診率が低く課題となっています。健診結果を見ると、血糖値等が高い人の割合は受診者の56・4％を占め、血圧が高い人の割合は受診者の75・4％となっております。

「今は悪いところがないから」「忙しくて受ける暇がないから」と自己判断で受診控えしています。高血圧や糖尿病などの生活習慣病は初期の段階では自覚症状がなく、知らない間に進行します。そのまま放置しておくと、さまざまな命に関わる病気を引き起こす可能性が高まります。40代からは生活習慣病を発症しやすくなるため、40・50代の働き盛りの方も健診の受診がとても重要です。

生活習慣病の予防・早期発見には1年に1回健診を受け、その結果から自分の体の状態を確認することが効果的です。病気が重症化すると医療費や時間もかかりますが、健康を維持できると、お金や時間の負担も少なくて済みます。健診結果で再検査が必要な項目があった場合は放置せずに、必ず医療機関を受診しましょう。数値に異常がなかった場合は、前回の結果と比較して悪化している数値に注目し、現在の生活・運動・禁煙・節酒など生活習慣を見直しましょう。

医療機関で治療中の方も、健診はご利用いただけます。健診を受けたら結果を主治医に相談し、健康管理に役立ててください。

町の健診は費用の補助があり、お得に受けることができます。「職場健診を受けているけれど、がん検診はなくて」という場合は、センター健診でがん検診のみお受けいただくことができますのでぜひお申し込みください。

▼健康福祉課 保健医療係
☎67・2116

朝日町の神社と御堂

第11回 豊龍神社 (本町)

【所在地】県道白滝宮宿線の本町、小坂屋商店さん前の交差点から北西に入り、豊龍公園に行く道の左側にある

社伝によれば、承和11年(844)延暦寺の僧安慧が出羽の講師に任ぜられ講場を開き、その時に地主神として神の託宣により豊玉姫命を祀り、豊龍大権現として社殿を建てたのが始まりとされています。別当の東守寺が神仏両部修験の寺院として奉祀していましたが、明治初期の神仏分離令により豊龍神社になりました。

本殿は古いもので、棟札によれば慶長元年(1596)に寒河江肥前守によって建てられたものとされています。なお、幣殿と拝殿は昭和32年(1957)に建てられたものです。

うさひのゆるっと解説
境内にある大スギは、安慧が植えたものと伝えられており、樹齢はおおよそ千年以上とされ、県内でもまれに見る大スギであるとして県指定天然記念物になっているんだよ。



「あさひまちブランド大学」開校から10年。
ブランディング×音楽の新しいスタイルのセミナーが開催されました。

THE ORIGIN



1



2



3

1. 「ASAHI TOWN」のロゴが入ったTシャツを着て講演する村尾さん
2. 竜馬さん、真島さんによる演奏
3. 公演後は来場者との記念撮影でにぎわいました

2月1日、創遊館ホールを会場にブランド戦略家の村尾隆介さんとヴァイオリニストの竜馬さんによるセミナーが行われました。

平成26年5月から始まった「朝日町総合ブランド戦略」の中核となった「あさひまちブランド大学」の10周年を記念して開催されたこのセミナー。会場では、開校当時町のブランド化を推進した村尾さんの講演と、町内の各小学校にて生の音楽を届ける竜馬さんの演奏との掛け合いが披露されました。

来場者は、美しい音色とともに10年前の様子を振り返りつつ、好奇心を持ち積極的に行動することの大切さを学びました。

当日の様子は町公式ホームページにも掲載しています▶



春夏秋冬 編集後記

1日でも早く、多くの方に普通の暮らしが
戻りますように

う日本」。一日でも早く復旧・復興できるように、義援金の寄付など些細なことですが、自分にできることを行っていきたいです。亡くなられた方々にお悔みを申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

なお、次号では「防災」についての特集を予定しています。もしもの際に備えて、日ごろから取り組んでいること、心がけていることなどがあればぜひ教えてください。

岡崎 陽果

令和6年能登半島地震…。1月1日、本来であれば新たな年の始まりを祝う日です。きっと多くの方が家族や友人などと楽しく過ごされていたのではないのでしょうか。皆さんは何をして過ごされましたか。

石川県では、現在も1万人以上の方が避難生活を続けています。今回の震災で、13年前の東日本大震災を思い出された方も多くいらっしゃると思います。当時よくテレビなどで耳にした「つながろ